令和３年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

日南町教育委員会（令和４年５月１３日審議決定）

『教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価』は、平成２０年４月１日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）」の一部改正により、新たに「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」ことが法第２６条第１項に規定されたことに基づき、令和３年度における日南町教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価し、その結果をとりまとめるものである。

日南町教育委員会は、『令和３年度 日南町教育の目標』を定め、これに基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価することによって、課題や取り組みの方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進を図るものである。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

評価	点 検 ・ 評 価 基 準	達成率目安
A	期待以上の成果・効果を得た。	９０％以上
B	目標･目的をおおむね達成（計画どおり推進）した。	８０％程度
C	取り組みがやや遅れた。（成果・効果が現れにくかった。）	５０％程度
D	取り組みの大幅な見直し・廃止が必要である。	３０％以下

Ⅰ　学校教育、幼児教育

１　ふるさとを愛し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成

（１）ふるさとを生かした体験的な教育の展開

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①日南町に愛着と誇りを持った人材を育成するため、自然・伝統・文化等の地域資源を活用した「ふるさと教育」を進める。特に、「木育」・「日南学」等の推進を図り、教材化の充実も進める。	・小１から中３まで全学年で地域人材、地域資源を活用した「ふるさとキャリア教育」の計画的な実施	B	B	・「日南学」推進委員会を立ち上げ、園から小中学校までの系統表、「日南学必須項目」、年間カリキュラムを作成した。 ○各園・学校での取り組みをまとめ、園から中学校までの系統を協議し、系統表等を作成することができた。 ▲保育士、教職員が日南町の自然・伝統・文化等に関心をもち、「日南学」の充実を図ることが求められる。
②自然体験や文化的な活動など協同的な学習を通して、他者への思いやりや優しさを育み、社会性や規範意識を育てる。	・i-Check による社会性（規範意識）に関する肯定的回答（全国平均）	C	C	・園や学校においては、様々な体験活動や異年齢・学年での活動などを行い、社会性の育成に取り組んでいる。 ・i-Checkによる社会性に関する肯定的回答 社会性（規範意識） 全国平均と同程度以上４学年（小１、小３、小５、中２） 「親切・思いやり」 全国平均と同程度以上５学年（小１、小２、小３、小４、小５） ○学年によっては、規範意識等に大きな改善が見られた。 ▲規範意識等に課題がある学年に対しては、長期的
	・i-Check による「親切・思いやり」に関する肯定的回答（全国平均）	C		

				な取り組みが必要である。
③日南町で生活・活動する人たちと関わりながら、園、学校、家庭、地域が連携した教育活動を展開する。	・地域人材、地域産業等を活かした体験学習の実施	B	B	・園での遊び、小中学校での生活科、社会科、総合的な学習等で、地域の自然や産業等を生かした体験学習が実施された。 ・新型コロナウイルス感染症対策で様々な活動が制限された中、学校支援ボランティアは年間で延べ４０８名（３月末まで）の活用があった。 ○CSサポーターを立ち上げ、ボランティアの組織作りに着手した。学校の要望に応じて様々な方の支援をいただき、学習が充実した。 ▲今後、ボランティアの組織をシステム化し、効率よく学習活動を支援できるように整備する必要がある。
	・学校支援ボランティアを活用した教育活動の実施	B		

（２）学習の基礎・基本の定着、基本的生活習慣の定着

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①家庭との連携を深め、学習習慣や基本的生活習慣の定着を図る。 ②運動や食事、生活リズム等を改善し、基本的な生活習慣に関する実践的な態度を育てる。	・i-Check による「学習習慣」に関する肯定的回答（全国平均）	C	C	・日々の指導や家庭学習がんばるウィークの実施、保健指導等により、好ましい学習習慣や生活習慣作りを目指している。 ・i-Checkによる生活・学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣 全国平均と同程度以上２学年（小１、小５） 生活習慣 全国平均と同程度以上４学年（小１、小３、小４、中２） 授業以外での運動習慣 全国平均と同程度以上８学年（小１、小２、小３、小５、小６、中１、中２、中３） ○運動する習慣は、多くの学年で定着している。
	・i-Check による「生活習慣」に関する肯定的回答（全国平均）	C		
	・i-Check による「授業以外での運動習慣」に関する回答（週２日以上の割合の全国平均）	A		

				▲望ましい学習習慣や生活習慣の定着は、引き続き大きな課題である。学校での子どもたちへの指導に加え、保護者への情報提供や啓発によって実態や目標を保護者と共有し、家庭との協力で改善を図ることが必要である。
③保育士・教職員が子どもの学びや育ちを支えるための系統性や指導の手立てを具現化し、指導力の向上を目指した研修を奨励する。	・教職員の授業公開（年間１回以上／人）	B	B	・ 計画訪問では全教員（管理職、養護教諭等を除く）が授業を公開した。 ・ 校内授業研究会は、小学校で４回、中学校で５回実施された。 ○各校で計画的に研究推進が図られている。 ○県教育センターの計画する研修には、小学校延べ２１名、中学校延べ２７名が参加した。 ○オンライン研修が増加しているが、参加のしやすさにより、研修の機会の確保につながっている。
	・研究テーマに沿った授業研究会（５回以上／年）	B		
	・教職員の研修派遣体制の整備	B		

（３）豊かな人間性と社会性の育成

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①人と人との関わりやルール等を重視した保育と学習、生活を展開し、コミュニケーション能力を身につけると共に、社会的規範意識や道徳的判断力を備えた子どもを育成する。	・i-Check による社会性（発信力）に関する肯定的回答（全国平均）	C	C	・園や学校は、学習や日常生活、行事等を通して、社会性や道徳性の育成に取り組んでいる。 ・i-Checkによる社会性に関する肯定的回答 社会性（発信力） 全国平均と同程度以上４学年（小１、小３、小５、中２） 社会性（規範意識） 全国平均と同程度以上４学年（小１、小３、小５、中２） ○コミュニケーション力の育成を意識した取り組みが増えた。 ▲園・小・中一貫教育ビジョンにおける柱の一つとして、取り組みを強化する必要がある。
	・i-Check による社会性（規範意識）に関する肯定的回答（全国平均）	C		

②道徳教育や人権教育（保育）の充実を図り、他者への理解や思いやりの心など豊かな心と道徳的実践力を育成する。	・i-Check による「親切・思いやり」に関する肯定的回答（全国平均）	C	C	・道徳や人権教育は年間指導計画に基づいて指導が実施されている。 ・i-Checkによる「親切・思いやり」に関する肯定的回答 全国平均と同程度以上５学年（小１、小２、小３、小４、小５） ○道徳の授業づくりの工夫や人権教育の確実な実施が図られている。 ▲児童生徒の道徳性をさらに高めるため、全教育活動における横断的な取り組みが必要である。
③海外派遣事業や国際交流事業、小中学校における外国語活動や英語科等を通して、グローバル社会で生き抜く人材の育成を図り、国際感覚とコミュニケーション能力を培う。	・海外派遣事業の実施	―	B	・ 海外派遣事業は、新型コロナウイルス感染症拡大のために中止。 ・ 国際交流事業は、シアトル中学生の来日の中止、京大留学生の受け入れ中止により、実施できなかった。 ・ シアトル中学生とのオンラインによる交流は、相手校の実施の意向の確認まではできているが、年度内の実施には至らなかった。 ・ モンゴル日本語学校生徒とのオンライン交流が日南小学校で２回実施された。 ・ 英検の受検結果 ３級合格（9/12）　４級合格（15/27） ５級合格（15/19）　全体合格率 67% ・保育園では、英語の本の読み聞かせを実施。 ○オンラインでの交流のための環境整備ができた。 ○英検合格率は７５％に到達しなかったが、昨年度より上昇した。また、中３における３級合格者数も昨年度を上回り、８名であった。 ▲シアトルへの海外派遣については、今後も実施の可否を慎重に検討していく必要がある。
	・国際交流事業（交流学習）の実施（年１回以上）	B		
	・生徒の英検合格率７５％以上	B		

④キャリア教育の充実を図り、自らの進路や職業について展望を持って意欲的に生活する児童生徒を育成する。	・ふるさとキャリア教育の計画的な実施	B	B	・ 各学年の指導計画の見直しの実施とそれに沿った学習活動の実施が行われている。 ・i-Checkによる「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答 全国平均と同程度以上２学年（小１、小３） ○キャリアパスポートの作成、小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直し等が実施された。 ▲児童生徒が、意欲的に学習や生活ができるよう、将来の夢や目標を具体的に考える機会を作るなど、ふるさとキャリア教育の充実を図る必要がある。
	・i-Check による「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答（全国平均）	C		

２　保・小・中の連携による教育と学力向上の推進

（１）保・小・中の連携による教育の推進

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①園児・児童・生徒の学びの意欲と確かな学力を着実に高めていくために、継続性、系統性、一貫性のある保育と教育の実践と充実を図る。	・保小合同研修会、小中合同研修会の実施（年３～５回）	B	B	・ 保小合同研修会４回開催 ・ 小中合同研修会４回開催（新型コロナウイルス感染拡大のため、中止１回） ・ 学校評価アンケート（一貫教育についての質問項目）の肯定的回答 小学校４７％　　中学校５４％ ○子どもの実態や育てたい力を全職員が共有し、園・小・中一貫教育ビジョンを作成した。 ▲園・小・中一貫教育ビジョンにもとづき、具体的な取り組みを推進していくことが必要である。
	・保護者アンケートによる肯定的回答（８０％）	C		
	・継続性、系統性、一貫性のある教育活動の実施	B		
②学年や校種を越えた集団的活動を通し	・児童生徒の主体的企画運営による教育活動の実践	B	B	・ 委員会活動や学校行事等、主に特別活動において児童生徒の自主的・主体的な活動の実施が図られ

て、自分の成長過程と将来的見通しを実感できる生活や学習活動を展開する。				ている。 ○保小の交流活動等が新たに計画・実施された。 ▲感染症対策による活動の制限があるが、子どもたちの主体性を育てるための活動の工夫が必要である。
③読み聞かせや読書活動等を継続的に取り入れ、豊かな心や創造力等の育成に努める。	・学校支援ボランティアによる読み聞かせ等の実施（５回以上／年）	A	A	・ 学校支援ボランティアによる読み聞かせは、小学校で１０回実施された。 ・ 朝読書は、小中学校ともにほぼ毎日実施された。 ・ 各保育園では、司書による読み聞かせを月１回実施している。 ○学校司書の配置等により、子どもが図書館に行く頻度等も増えている。
	・朝読書の実施（毎日）	A		

（２）学力向上の推進

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学力を支える非認知能力の向上を目指した取り組みを幼児期から一貫して行うことにより、意欲的な学びの態度や学習習慣を身につけさせる。	・i-Check による「学習習慣」に関する肯定的回答（全国平均）	C	C	・授業や家庭学習についての指導等、個々の児童生徒の実態に応じて、学習意欲の向上や学習習慣作りに取り組んでいるが、全体的な成果が見えにくい。 ・i-Checkによる学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣 全国平均と同程度以上２学年（小１、小５） ▲学習習慣の定着のために、学習意欲や粘り強さ等を高めるために、一貫した長期的な取り組みが必要である。
②基礎的な学力を保障するために、指導力向上に向けた研修を積極的に行い、わかる授業の創造、授業法の工夫改善を進める。	・学習指導等に関する校内研修の実施や外部研修への参加	B	B	・ 校内授業研究会は、小学校で４回、中学校で５回実施された。 ・ ＩＣＴ活用研修は小学校５回、中学校３回実施。 ・ 県教育センターの計画する研修には、小学校延べ２１名、中学校延べ２７名が参加した。 ○各校で計画的に研究推進が図られている。

				○オンライン研修が増加しているが、参加のしやすさにより、研修の機会の確保につながっている。
③児童生徒の学力の現状及び課題を把握・分析し、具体的な手立てを講ずると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善やＩＣＴ活用教育を推進する。	・標準学力調査や全国学力・学習状況調査の結果を活用した学力向上対策の実施	B	B	・ 各校で結果分析を実施し、具体的手立てを検討・実施するとともに、保護者にも周知している。 ・ 全国学力・学習状況調査の過去問や類似問題を授業の中で活用したり、補充学習を実施したりするなど、授業改善と児童・生徒の課題の克服につなげるよう努めている。 ○学年によっては、標準学力調査でも改善の結果が表れている。 ▲学年による差が大きいため、継続的な取り組みが必要である。
④英検受検や京大留学生との交流、海外派遣事業等を通じて、グローバル化に対応した英語教育の推進に努める。	・海外派遣事業の実施	―	B	・ 海外派遣事業は、新型コロナウイルス感染症拡大のために中止。 ・ 国際交流事業は、シアトル中学生の来日の中止、京大留学生の受け入れ中止により、実施できなかった。 ・ シアトル中学生とのオンラインによる交流は、相手校の実施の意向の確認まではできているが、年度内の実施には至らなかった。 ・ モンゴル日本語学校生徒とのオンライン交流が日南小学校で２回実施された。 ・ 英検の受検結果 ３級合格（9/12）　４級合格（15/27） ５級合格（15/19）　全体合格率 67% ○オンラインでの交流のための環境整備ができた。 ○英検合格率は７５％に到達しなかったが、昨年度より上昇した。また、中３における３級合格者数も昨年度を上回り、８名であった。 ▲シアトルへの海外派遣については、今後も実施の可否を慎重に検討していく必要がある。
	・国際交流事業（交流学習）の実施（年１回以上）	B		
	・生徒の英検合格率７５％以上	B		

（３）乳幼児期からの教育の充実

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（〇）課題（▲）
①基本的生活習慣の定着、規範意識の育成及び他者との関わり等、保小の教育内容や指導法について共通理解を図り、保育園と小学校の円滑な接続に努める。	・子ども支援連絡会議、保小連携会議、ケース会議等を活用した支援体制の構築	B	B	・ 各会議とも概ね計画通りに実施され、情報共有や引継ぎ等もきちんと行われた。 ・ アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直しや活用が行われていた。 〇一人一人の子どもの状況等を丁寧に共有し、支援の方法を工夫するなど、円滑な接続や適切な支援の実施に努めていた。 ▲園・小・中一貫教育ビジョンに基づいて、取り組みをさらに進める必要がある。
	・保育要録、支援シートを活用した情報共有と移行支援会議の実施	B		
	・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの活用、実践	B		
②幼児期の終わりまでに育ってほしい「１０の姿」に照らした環境整備や体制づくりを進め、幼児教育の充実に努める。	・保育士研修（CS、認定こども園等）の実施等、保育園との連携	B	B	・ 認定こども園への移行に向けて、保育士とともに小中教職員の研修も行った。 ・ 北栄町の認定こども園の視察を計画・実施した。 ・ 保小連携会議に参加し、保小合同研修会を計画・実施した。 〇認定こども園への移行に向けて、視察・研修を行い、保育士の理解を図った。計画訪問、カンファレンス等を通して保育園の状況を把握することができた。 ▲認定こども園移行に向けて、事務的な手続きは完了したが、今後、教育の部分のカリキュラムの充実が求められる。

３　家庭・地域と連携した教育の推進

（１）学校・家庭・地域の連携による子どもの育成

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校、家庭、地域が一体となり、子どもの教育活動を支援する体制・組織・環境を確立すると共に、積極的な情報発信に努める。	・学校支援ボランティアの積極的・計画的活用	B	B	・地域コーディネーターの配置により、学校と連携を図りながら、CSサポーターの活用を図った。 ○地域コーディネーターにより、幅広くボランティアを募ることができている。様々な方が支援してくださり、子どもたちの学習が充実した。 ○CSサポーター連絡協議会で学校管理職とも意見交換ができた。 ▲CSサポーターを束ねる地域コーディネーターの資質向上が求められる。CSサポーターをうまく運用できる組織にする必要がある。
	・地域コーディネーターとの連携・協働 ・学校支援ボランティア連絡協議会の定期的開催（１回／２ヶ月）	B		
②学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入に向けた取り組みに努め、地域とともにある学校づくりに努める。また、地域ＣＯ・ＣＳサポーターなどの配置による学校支援活動を効率的、組織的に進める。	・学校運営協議会委員の研修等の実施	B	B	・１月に学校運営協議会を設置するまで学校運営協議会委員の研修を２回行った。 ・町報、CSだよりを発行し、広報活動に努めた。 ・県CS研修会、全国CSフォーラムに学校運営協議会委員も参加し、研鑽を深めた。 ○学校運営協議会が立ち上がり、３回の会議を開催した。運営協議会委員は積極的に、熟議（めざす子ども像）を行った。 ▲今後、学校と運営協議会が一体となった学校運営の充実が求められる。そのためには、学校を開くことが重要である。
	・学校運営協議会の広報活動の実施	B		

（２）保護者研修の充実

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①日南町で安心して子育てができるように、子育てセミナーや家庭教育講演会、子育て相談、医療相談等の充実を図り、家庭教育の重要性の自覚と家庭教育に関する意識の高揚を促す。	・各健診時、学年行事等を活用した講演会や保護者研修会の実施（年２回）	B	B	・ 就学時検診では、新入学児童保護者を対象に、鳥大医学部角南先生に講演をしていただいた。 ・ 家庭教育講演会を兼ね、「日南学講演会」を開催した。 ○ 角南先生の講演会では、子どもとのコミュニケーションの大切さについて講演していただき、保護者の理解が深まった。 ▲家庭教育に関する啓発の機会を増やすよう努めたい。
②家庭教育推進員を配置し、ＰＴＡ活動の活性化を図ると共に、相談活動、支援活動をすすめ、家庭教育の充実と連携強化を図る。	・「共育いちい」の定期発行による家庭教育啓発（月１回発行）	C	B	・家庭教育推進員が１月から１名配置となり「共育いちい」の発行、家庭教育アンケートの実施を行った。 ・家庭教育講演会と兼ねて、「日南学講演会」を開催した。 ・家庭教育支援員等が年長児や小学校１年生の家庭訪問を実施した。 ○家庭教育推進員が小学校に常駐することでSSWとしっかりと連携することができた。 ▲保護者へ向けて、家庭教育の大切さをもっと訴えていく必要がある。
	・ 保護者への研修情報の提供とＰＴＡ研修の支援	B		

４　学校教育を支える教育環境の充実

（１）創意工夫を生かした特色ある学校運営の推進

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①計画的な学校評価、教職員評価・育成制度の活用を通して、教職員の意欲や資質の向上を図ると共に、授業や学校運営の改善を図る。	・学校自己評価の実施	B	B	・各学校で、児童生徒の実態や教育活動の実施状況等を踏まえた学校自己評価が行われた。 ・教職員評価・育成については、管理職との連携を図りながら実施した。 ○評価結果の公開等、計画的に実施された。 ▲評価結果を改善のための具体的方策につなげる必要がある。
②地域との連携等による開かれた活力ある学校づくりを推進し、地域人材の活用や学校と地域をつなぐ人材の配置などの仕組みを整える。	・学校支援ボランティアの活用 （ボランティア延べ人数年８００人以上）	B	B	・保育園、小学校、中学校とも積極的に地域人材の活用を図り、学習活動・体験活動が充実した。特に、林業アカデミーの支援により、木育の学習は深まった。 ・新型コロナウイルス感染の影響で、ボランティアは年間で延べ４０８名の活用があった。 ・特別非常勤講師により、小学校では年間を通して、１年生と５年生がお世話になった。 ・地域コーディネーターを１配置し、学校と地域をつなぐ役割を担ってもらった。 ○学校の要望に応じて様々な方の支援をいただき、学習が充実した。
	・特別非常勤講師の活用と地域コーディネーターの配置	B		

（２）安全・安心で質の高い教育環境の整備

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校内外の安全確保、危機管理体制の充実を目指した機能的な学校環境を創造する。	・学校危機管理マニュアルの点検と整備	B	B	・各学校で危機管理マニュアルの見直しが行われ、教育委員会に提出された。 ・安全点検については、保育園、小学校、中学校ともに毎月実施され、遊具については、業者による点検も実施した。 ○児童生徒の安全確保のため、学校と連携しながら施設・設備の管理を行った。 ▲老朽化等による破損等がある箇所は、安全のために適宜対応していく必要がある。
	・学校の安全点検の徹底と指導（月１回）	B		
②ＩＣＴ環境、学校図書館及び教材整備の充実に務め、質の高い教育が受けられる教育環境を整備する。	・ＩＣＴ機器やソフトウエア等の環境整備	B	B	・iPadやPC等のICT機器の整備・管理を進めている。 ・小中学校ともに指導者用デジタル教科書を整備した。 ・ICT支援員の委託により、研修や授業支援が充実した。 ・学校司書が中心となり、町図書館とも連携を図りながら蔵書の充実に努めた。 ・学校からの要望等にもとづき、施設・設備・教材を整備した。 ○ICT機器の活用が日常的に行われるようになるなど、活用の推進が図られている。 ▲ネットワークの改修等、さらに環境整備を進める必要がある。
	・ＩＣＴ支援員の活用	B		
	・司書教諭、学校司書、図書支援ボランティアが連携した読書環境の整備	B		
	・学習や生活環境充実のための施設、設備、教材整備	B		

（３）いじめ・不登校等に対する対応強化

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①スクールソーシャルワーカーの配置等により、子どもを取り巻く環境への働きかけ等を通して、いじめ・不登校などの生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みを強化する。	・子ども支援連絡会議の定期開催（月１回）	B	B	・子ども支援連絡会議は、概ね月１回（年間８回）開催した。 ・教員だけで対応するケースもあり、SSWやSC等の外部人材の活用が不十分な面があった。 ○各学校で組織的対応が意識され、改善や早期解決に至ったケースもあった。 ▲改善が見られなかったり、問題が長期化したりしているケースもあった。今後も改善のための取り組みの継続が必要である。
	・個別の指導計画及び支援シートの整備・活用と指導助言	B		
	・生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みと組織的対応	B		

（４）特別支援教育及び心の教育の充実と組織・体制づくり

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①特別な支援を必要とする幼児児童生徒が、その種類や程度に応じた教育が受けられるよう特別支援教育支援員の配置等、支援体制や仕組みを整える。（子ども支援連絡会議、就学支援委員会等の支援体制の充実と活性化）	・子ども支援連絡会議の定期開催（月１回）	B	B	・子ども支援連絡会議は、概ね月１回（年間８回）開催した。 ・町就学支援委員会は西部町村就学支援委員会に向け、２回開催した。 ・５歳児健診や就学時検診、子ども支援連絡会議、保育園でのカンファレンス等、保小中、福祉保健課等との連携を図った。
	・町就学支援員会の開催（年２回）	B		

	・学校関係者、福祉保健関係者、医療関係者等の随時の情報交換の体制づくり	B		○子どもの実態や状況に応じた支援の在り方について共有したり、検討したりすることができた。 ▲保護者の理解を得ながら、適切な就学支援を実施していく必要がある。
②いじめや不登校等、生徒指導上の諸問題の解決や教育相談の充実のため、人的配置や専門機関・関係機関との連携を図る。	・スクールソーシャルワーカーの配置や各機関の役割を明確にした支援体制の構築	B	B	・ＳＳＷが連携しつつ、保育園から中学校まで幅広く支援に取り組めるよう、様々な取り組みを行った。 ・生徒指導上の問題等に迅速に対応する組織運営が各学校で整えられた。 ○各学校で個々の問題に対して丁寧に対応され、早期解決に至ったケースもあった。 ▲不登校等、生徒指導上の問題が長期化しているケースもあった。今後も改善のための取り組みの継続が必要である。
	・いじめや不登校、生徒指導上の諸問題に迅速かつ適正に対応できる学校体制の構築	B		
③高校教育への丁寧な接続と進路指導に努める。	・高校教育の在り方を視野に入れた進路指導の充実	B	B	○中学校では、個々の生徒の希望や各高校の特色等をふまえ、保護者と連携しながら生徒に合った進路指導が行われている。

Ⅱ　社会教育

１　社会教育の充実と生涯学習の推進

（1）学習の機会・成果発表の場の提供と充実

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（〇）課題（▲）
①町民のニーズに合った生涯学習講座を開催し、学習の機会づくりを行う。	・各機関と連携し、成人層を対象とした生涯学習講座の開催（参加者数 平均20人以上、満足度85%以上）	A	B	・にちなん町民大学 14講座計画（うち5講座特別警報のため中止） 平均参加者数24人　満足度 81.71% ・やさしい国語 6回開催　受講生22人　満足度95% ・やさしい数学 6回開催　受講生9人　満足度88% 〇町民大学では、新規町指定文化財巡りやスマートフォン講座など体験型の講座において特に高い満足度を得た。 ▲現役世代も参加しやすい講座を構築する必要がある。令和４年度には「やさしい国語」の休日開催、オンライン文化教室の開講を予定。
	・高齢者を対象とした、自主的運営による「人生学園」の学園運営への支援実施（年間１０回開催、新規入園生5人以上）	B		・11回計画（うち3回感染症拡大により中止） ・園生50人（うち新規入園３人）。 〇感染症の影響で3回を中止としたが、キャッシュレスなど日南町の行政課題などを取り上げた全体学習を行い、住民の学習意欲の向上を図った。

	・独身者、親世代など広く町民を対象にしたセミナーやイベントなどの婚姻奨励事業の実施	B		・セミナー 3回開催　参加者数12人 ・WEB会議システムによるイベント 1回開催　参加者数7人 ・登録相談会　参加者3人 ・事業所を訪問し婚姻奨励事業への協力を依頼。 ○結婚相談所への新規入会者１人。 ▲入会者数が伸びない。コロナ禍もあり会員の活動も縮小傾向にある。より効果的なアプローチ方法の検討が必要。
②町民の生きがい、やりがいとなり、町民が活躍できる場が広がることを目指し、学習の成果を発表できる場の提供を継続して行う。	・「にちなん文化展」や常設作品展示コーナーなど作品発表の機会の確保	B	B	○「第８回にちなん文化展」 来場者数414人 ・「ふる里まつり」 出展団体・個人数45（うち物品販売３団体） 来場者数950人 ・芸能発表大会中止。
	・芸術文化活動への関心の高揚、文化活動人口の底辺拡大と活性化。 （ふる里まつりの出展者・団体 計60以上）	C		
③学習活動の活性化を図るため、活力ある文化団体等支援助成金による支援を継続して行う。	・ふる里まつりにおける活動報告の実施	B	C	・活力ある文化団体等活動支援助成金 申請数12団体（うち新規2団体） ▲申請件数が減少している。次年度からは、どのような活動に対して支援を実施しているのか、具体例を挙げて広報を行う必要がある。
	・活力ある文化団体等への活動助成金交付 （申請数 20団体以上、新規2団体以上）	C		

（２）文化施設を活用した文化振興

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①総合文化センターについて、指定管理者制度を活用して文化芸術活動を推進する	・総合文化センターの施設・設備等を点検し、改修を計画的に実施する	A	B	・今年度は大規模改修なし。 ▲整備計画を元に、緊急性の高い建物・設備の改修を行う。令和４年度は、美術館の壁面ガラス

。				展示ケース改修を予定。
	・総合文化センター自主事業の実施（年間６公演）	B		・2021ブラスフォレスト（ビデオ収録・配信による開催） ・竹あかりづくり（ふる里まつり）　参加者76人 ・映画上映会「ドクター・ドリトル」「イエスタデイ」　入場者 158人 ・NHKラジオ公開収録「ラジオ深夜便のつどい」入場者 214人 ・モンデンモモ「竹あかりライブ古代への旅」入場98人・ライブ視聴63人・配信視聴510人 ・にちなん伝統芸能祭（中止） ・にちなん伝統芸能展（1月25日～30日） ・にちなん音楽祭OTOまつり（中止） ○コロナ禍で集客型の事業実施が困難な状況であったが、オンライン配信をするなどして町民が文化芸術に触れる機会の確保に努めた。
②総合文化センターの施設等を文化芸術活動の場として積極的に利用していただき、活動の活発化を図る。	・指定管理者への委託による適正な運営と管理（来場者、利用者の前年比増）	A	B	・文化センター（ホール、研修室）の利用促進 利用者数 延べ24,867人（昨年9,605人） ○感染症拡大に伴い、町内の伝統芸能団体が集結し行う公演は中止としたが、各団体の衣装や道具などの展示を行い、町内の伝統芸能を町民に周知する機会を設けた。
	・団体と文化センターとの結びつきの強化（　〃　）	C		

（３）生涯学習を行う文化団体、個人の支援

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①社会教育推進員を配置し、生涯学習を行う団体や個人を支援し、社会教育の充実	・町や各地域における各種行事、取組に対する支援及び情報交換、連携。	C	C	・社会教育推進員が不在のため、職員が各まちづくり協議会を回り、生涯学習事業の聞き取りな

と連携強化を図る。 ②各まち（むら）づくり協議会と連携をさらに深め、地域の生涯学習の充実を図る	・まち（むら）づくり協議会との連携と情報の共有化	C		どを行った。 ▲社会教育推進員を早期に任用し、各協議会や生涯学習団体、個人の支援を行う必要がある。 ・特色ある地域活動補助金（7地域中6地域申請）
	・地域での主体的な学習・活動に対する協力や支援	C		
③社会教育委員の研修を充実し、資質の向上を図る。	・研修会の開催（年１回以上） ・委員の社会教育事業への参画	A	A	・会議３回、研修会２回 開催。 ・にちなんっ子クラブへの協力。

２　青少年の育成・家庭教育の充実

（1）「ふるさと教育」の推進

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①日南町に誇りと愛着を持ち、将来の地域の担い手となる人材育成に努める。	・日野郡３町で行う「ふるさと教育」の推進 公設塾「まなびや縁側」の充実と塾生の確保 （町内在住高校生の利用5人以上）	C	C	塾登録者31名（うち寮生21人、町民2人） ＜特別講座＞ ○Beansキャリアアップゼミ 4回開催　延19人参加 ○My future　日野郡で生きる・働くを考える 4回開催　延21人参加 外部講師　8人 ○縁側講師ゼミ 14回開催　延61人参加 ○その他集合型講座 7回開催　延33人参加 ＜探究活動＞　実施人数：4人 ＜オープンスクールin日南町＞　高校生１名参加

②青少年が地域で活躍できる場づくりに努める。	・西部圏域における青少年事業への町内在住者の参加、交流	－	－	・感染症拡大に伴い開催中止。

（２）体験活動の機会を提供

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①地域や地域人材、団体による連携の中で、活動の楽しさやふるさとの良さに気づけるような体験活動を実施する。	・まちづくり・むらづくり協議会等と協力した体験活動の実施	B	B	・地域住民を講師に迎えた講座の実施。 ・夏休みと冬休みの一部講座を中止。 実施数11講座、参加者数215人 ○県指定天然記念物サクラソウ現地見学会を開催し、地域の宝について学習する機会を設けた。
	・長期休業中の子ども体験活動の実施	B		

（３）家庭教育の推進

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①家庭教育推進員を配置し、家庭教育の推進を図る。 ②親の育ちを応援する学びの機会を充実させる。 ③親子と地域をつなげる取り組みを進め、地域全体で子育てを応援する。	・家庭教育講演会の実施（学校・PTA等との連携）（年１回以上）	B	B	・家庭教育講演会として「日南学講演会」実施 参加者 教職員49人、町民47人 ・反抗期、思春期における親子の関わりをテーマにした育児漫画家による講演会を町民大学と連携し企画。感染症拡大により中止。

３　文化財、郷土芸能の保護と伝承

（１）文化財、遺跡の調査並びに保護

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①郷土の歴史的史料の保存に努めると共に、郷土資料館の所蔵品をはじめとする史料の整理を進める。 ②町の有形・無形文化財や遺跡についての調査や保護に努め、町民への啓発活動を行う。	・古文書及び歴史資料のデジタルデータを公開	C	B	▲デジタルデータ活用のための新たな取り組みが必要。 ○新屋所在遺跡 試掘調査実施。 ・オオサンショウウオ生息調査（山上地区、石見地区、福栄地区）の実施。 ▲下谷中山鉄山測量業務の一部が繰越となった。 ・新規町指定文化財「花口遺跡めぐり」の実施。参加者数16人。
	・遺跡地図の情報更新と公開	B		
	・住民への情報提供、現地説明会の開催	A		

（２）郷土資料館の資料を活用した町民への郷土史、文化財の周知と理解促進

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①所蔵資料の独自調査、研究を進めると共に、その成果を町民に広く周知し、郷土	・講座等の開催による郷土の歴史への興味関心と調査意欲の喚起	B	B	○人生学園歴史コースにおいて所蔵品について講義を行い、住民の学習意欲向上を図った。

の歴史に対する学習意欲の向上を図る。	・地域や団体と連携した学習機会の提供	B		参加者12人 ・古文書解読講座の開催 開催回数 8回、参加者数延べ59人 ・県立機関に収蔵品の貸出を行った。

（３）郷土芸能伝承のための支援

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①郷土伝承芸能等の保存伝承と後継者の育成及び助成に努める。	・無形文化財保護活動への支援	B	B	・文化財等保存活用事業補助金の新設。

４　図書館・美術館の充実

（１）町民が求める資料、情報の提供

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町民の求める資料や情報の提供に努めると共に、広く町民に図書館の魅力と活用方法を積極的にＰＲし、利用者の増加を図る。	・図書館だよりやCATVなど、あらゆる媒体を活用した情報発信	B	B	○図書館だよりや図書館ＨＰによる活動紹介が来館へとつながった。 ・参考業務　288件 ・予約リクエストサービス　1,665件 ・町民１人当たりの貸出冊数　4.26冊
	・参考業務（120件以上）、予約リクエストサービスの利用促進（1,800件以上）	B		
	・利用状況（実績）町民１人当たりの貸出冊数5.0冊	B		

（２）子どもの読書活動・学習活動の支援

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①子どもが日常的に読書に親しむことができるよう環境整備に努める。	・おはなし会やブックトークなど子どもが本に親しみ、読書に興味を持つ取り組み	B	B	・出張読み聞かせ 保育園　39回、延570人 子育て支援センター　11回、延71人 放課後児童クラブ　12回、延89人 ・保護者に向けた読書啓発活動　１回 ・例年実施している幼児健診における家庭読書啓発はコロナ禍により中止（福祉保健課）。 ・児童書貸出冊数　13,208冊
	・保護者に向けた子どもの読書活動の啓発（年３回以上）	C		
	・利用状況（児童書貸出冊数12,000冊以上）	B		
②子どもの学習活動の充実のため、学校図書館支援など、学校との連携・協力を進める。	・図書を利用した学習活動の支援（各学年学期ごとに1回以上）	B	B	・学習用図書の貸出 小学校 26回、中学校 5回 ・学級貸出 小学校：月１回、中学校：学期１回入替
「日南町子どもの読書活動推進計画」の見直しを図り、その実践に努める。	・読書を取り巻く環境の変化に応じた計画の見直し	B	B	・第２次計画を策定した。 ▲今後は計画に沿って推進をしていく。

（３）地域活性化、基幹産業の発展に役立つ資料・情報の提供

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①農林業分野や地域振興、６次産業化に役立つ資料の一層の充実を図る。	・農林業、地域活性化コーナーの周知	C	B	▲ターゲットを絞ったＰＲ ○専門家に助言してもらうことにより、農林業に携わる人のニーズに沿った資料収集ができた。
	・農林業分野や地域振興、第６次産業に関する新書籍の購入や資料収集の実施	B		

（4）魅力ある展覧会の実施

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①多様な芸術文化に触れる機会を提供する。	・特色ある企画展と収蔵品を活用した魅力ある展覧会の開催（企画展と収蔵品展　年６回開催）	A	A	・特別展1回、企画展5回、県展、にちなん文化展、児童画展、所蔵品展2回を開催。 ○「廣池昌弘写真展」「高橋みのる　木のからくりおもちゃ展」をはじめ、「高橋俊和　輝魂展」「木下翠雨展」など、幅広い分野の展示に取り組み、魅力のある展覧会の開催に取り組んだ。 ○入館者約5,500人（昨年約4,300人）
②郷土ゆかりの作家や作品を紹介し、広く情報発信を行う。	・佐武林蔵、足羽俊夫など、郷土ゆかりの作家や作品の展示事業の開催	A	B	・所蔵品から、佐武林蔵コレクション、足羽俊夫や小早川秋聲、入沢俊夫などの作品展示をした。 ○鳥取県ミュージアムネットワーク連携事業により郷土の画家木下翠雨を紹介する展示を開催。 ・ギャラリートーク48人/2回、ワークショップ延べ370人、子どものアトリ延べ235人/24回開催。 ○夏休みの「木のからくりおもちゃ展」では、木のパズルづくりや親子でのバンブージムづくり、エコクラフト体験コーナーなどへ300名以上が参加した。 ○「廣池昌弘写真展」では、日南町をフィールドに活躍する写真家と研究者とのトークショーを開催して134名が来場。日南町自然の豊かさと魅力を広く伝えることが出来た。 ・展覧会ごとに、ポスター、チラシ等を作成、配布。報道機関への情報提供につとめ、新聞、テレビ取材に対応、ホームページやブログなどＳＮＳでの情報発信に取り組んだ。
	・絵画鑑賞をより深めるための展示説明や講演会、ワークショップなどの教育普及事業の実施	B		
	・ポスター、チラシを作成し、広く配布するとともに、新聞、テレビ、ラジオ、ホームページやブログなどのあらゆる媒体を活用した情報発信	B		

（5）郷土の文化、芸術活動の活用と保存

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町の貴重な文化・芸術品を収集・調査し、適切に管理すると共に、特色ある所蔵品の充実を図る。	・美術品の収集（購入、寄贈、寄託作品の受け入れ）	B	B	○寄贈１点　小早川秋聲「突撃」
②所蔵品情報を広く公開したり、活用したりするためのデジタルアーカイブのデータベース作成と調査研究に取り組む。	・所蔵品のデータベース化	C	C	・収蔵作品を撮影し、デジタル化を進めた。 ▲作品情報を付与し、公開を進めるためには、人手が不足している。

（6）美術教育の普及

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①美術館が鑑賞教育の場としての役割を果たすため、学校との連携体制づくりを進める。	・図工や美術の授業を活用した鑑賞教室の実施	A	A	・山の上保育園との絵画教室(3 年目) ○「廣池昌弘写真展」で、保育園児と日南町の自然をイメージしたブラックライトアート制作に取り組み、館内展示をした。

5　健康・体力づくり、スポーツ活動の推進

（1）健康、体力づくりの推進

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）

①町民が自らの健康や体力づくりに関心を持ち、スポーツに親しむ環境づくりの推進を図る。	・各競技部による大会の開催と協力	－	－	・新型コロナウイルスの影響により多くの各種大会・事業が中止となったが、感染対策や準備を行ったうえで開催できた事業もあった。
	・体力運動能力調査の実施と運動能力の現状把握	－		
②スポーツ活動の活性化やスポーツ推進委員の活動の充実を図り、各種スポーツの普及と振興、体力づくりの推進を図る。	・スポーツ推進委員によるニュースポーツ普及活動	A	A	・感染症の影響により回数は限られたが、ＰＴＡや地域活動等で出張講座を実施した。 ・全国及び中国地区のスポーツ推進委員研究大会が中止となり、県大会のみ参加。 参加人数　表彰1人、運営スタッフ8人 ○スクエアステップ指導員資格認定講習会を開催し、10名が新規に指導員資格を取得した。 推進委員16名中、指導者資格保有者15名
	・スポーツ指導者の資質の向上に関する研修会等参加	A		

（２）各競技団体の活動強化支援

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①各種スポーツ団体の活動の活性化及び自主的運営の促進を図る。	・日南町体育協会、日野郡体育協会等との連携	B	B	▲児童数の減少と競技団体の増加によりスポーツ少年団の活動が停滞しつつある。令和4年度にスポ少への新規加入を目指すクラブもあり、他クラブチームへも加入のメリットを周知する必要がある。 ・郡大会及び四県四郡市大会　中止
	・日南町スポーツ少年団の育成と活動支援	B		
	・郡民体育大会、四県四郡市体育大会の支援	－		
②日常的にスポーツ活動に親しむための団体育成に努める。	・各種スポーツ活動の取り組みの支援と活動の活性化	B	B	・活力ある活動団体補助金を活用し、スポーツ団体への支援を行った。 申請スポーツ団体数 5団体 ・総合型地域スポーツクラブの設立に向けた設立準備委員会の立ち上げに際し支援を行った。

（３）社会体育施設の運営管理

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①社会体育施設の適正な管理運営と利便性の向上に努める。	・定期的な施設管理の実施 ・社会体育施設の修繕計画の策定 ・社会体育施設を利用しやすい施設となるように整備、補修等を実施	B	B	・定期的な施設の清掃・点検を実施し、利用者が安全に利用できるように努めた。 ▲社会体育施設修繕計画に基づいた施設修繕に努め、施設の長寿命化を図る。
②中学校の部活動や各種団体が利用しやすい施設となるように、利用調整や施設整備に努める。	・体育施設利用調整の実施	B		・利用が集中する冬季間に利用調整会を実施。 ▲武道館修繕工事期間中（令和4年度）における体育施設の公平な利用調整。

6　「社会に開かれた教育課程」実現に向けた学校教育との連携

（1）学校を核とした生涯学習の実践、学習成果の発表

目　標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校と地域人材との橋渡しを行い、地域学校協働活動を推進する。	・地域コーディネーターと連携し、地域人材を活用した教育活動の実施	B	B	・まちづくり協議会主催の青少年向け事業を地域学校協働活動事業として位置づけ、居住地域を越えた児童・生徒の参加と地域住民の意識向上に努めた。
②生涯学習を通じて培った学習成果の発表の場として学校を活用したり、地域での生涯学習活動を子どもの学びとしたりして、地域の人々と児童生徒との交流を図る。	・学校を活用した学習成果の発表の実施	C	C	・学校の空き教室を利用した生涯学習活動の実施について、学校と調整を行った。令和4年度からは、日南学を通して、園・学校で学び合う交流活動を行う方向で調整中。